

## 🐾 獣の数を減らす

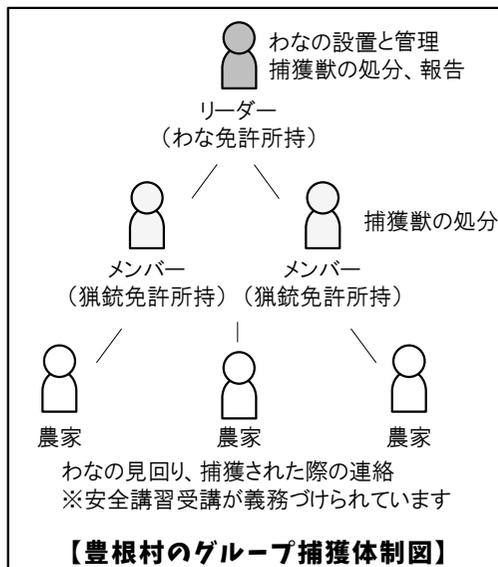
### 「捕獲は“狩猟者の仕事”と思っていませんか？」

多くの方が、捕獲は狩猟者だけの仕事と思っているかもしれません。実は私も、他地域の事例を見るまではそう考えていました。しかし、実際に夏場の有害捕獲を経験して感じたのは、「これは一人ではとても続けられない」ということ。罠をかけるのはそれほど大変ではありません。でも、毎日の見回りや、50kg以上あるシカ・イノシシの引き出し、解体、埋設などは重労働です。特に仕事をしながらこなすのは現実的ではないと痛感しました。

最近では、  
**地域ぐるみで捕獲に取り組むことで、  
捕獲頭数を増やしている** 地域も  
増えています。

### 📢 他地域の取り組みを紹介！

お隣、**豊根村**では、  
猟師をリーダーとして地域の人も参加する  
『**グループ捕獲体制**』  
で捕獲を進めています。



## 🐾 できることから一歩ずつ！ 地域で協力するとできることが広がるかも？

### 簡単にできることから始めよう

これだけいろいろ紹介しましたが、無理をして継続できない対策は大変なだけです。そのくらいならできるかも！？という対策から始めてみましょう

#### ◎ 対策ははじめが肝心

どんなに意気込んで対策をしても、効果のない対策だと動物に負けてしまいます。柵を設置し直そうと思う、地域で対策を進めたいという方は小川までお声かけください！

### 地域ぐるみで対策をしたいときは 地域内で話し合みましょう

鳥獣害はみんなの共通の課題です。特にサルは農業被害以外にも、酷くなると家への侵入や、子どもへの攻撃などにもつながります。



# けもの通信

## 🐾 鳥獣被害対策って何やったらいいんだろう？

こんにちは！地域おこし協力隊の小川晴那(おがわはるな)です。  
最近、「鳥獣被害対策って実際何やったらいいの？」と聞いてもらえることが増えてきました。関心を持っていただけていること、すごくうれしく思います。なので！  
今回は方法論ではなく、鳥獣被害対策の基本的な考え方のお話をしたいと思います。

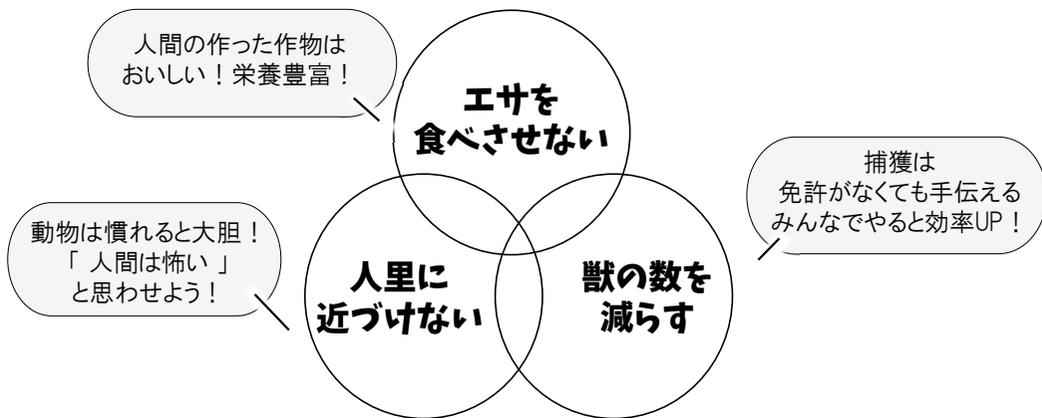
ありがたいことに「けもの通信を手元に残したいんだけど..。」と言ってくださる方が出てきました！



← 『けもの通信』は町のホームページに掲載しております。  
また、経済課にも置いておりますので、必要な時はぜひご参考下さい。

## 一 鳥獣被害対策の三本柱一

鳥獣被害は3つの柱の考え方をもとに総合的に対策していくことで軽減されていきます。



3つの柱のどれかだけを気を付けて対策をすればいいわけではなく、3つの柱を

- ◎ 順序だて
- ◎ バランスよく
- ◎ みんなでまとまって

実行することが大切です。

それぞれどのような考え方なのか見ていきましょう！



似顔絵が  
できました！

## 🐾 人里に近づけない

自然の中にはいろんな環境があります。

野生動物たちは、その中から「ここなら生きのびやすい」と思える場所を選んで暮らしています。

ということは...

### 動物がよく出てくる場所

II

### 動物にとって「居心地のいい場所」

なのかも?!

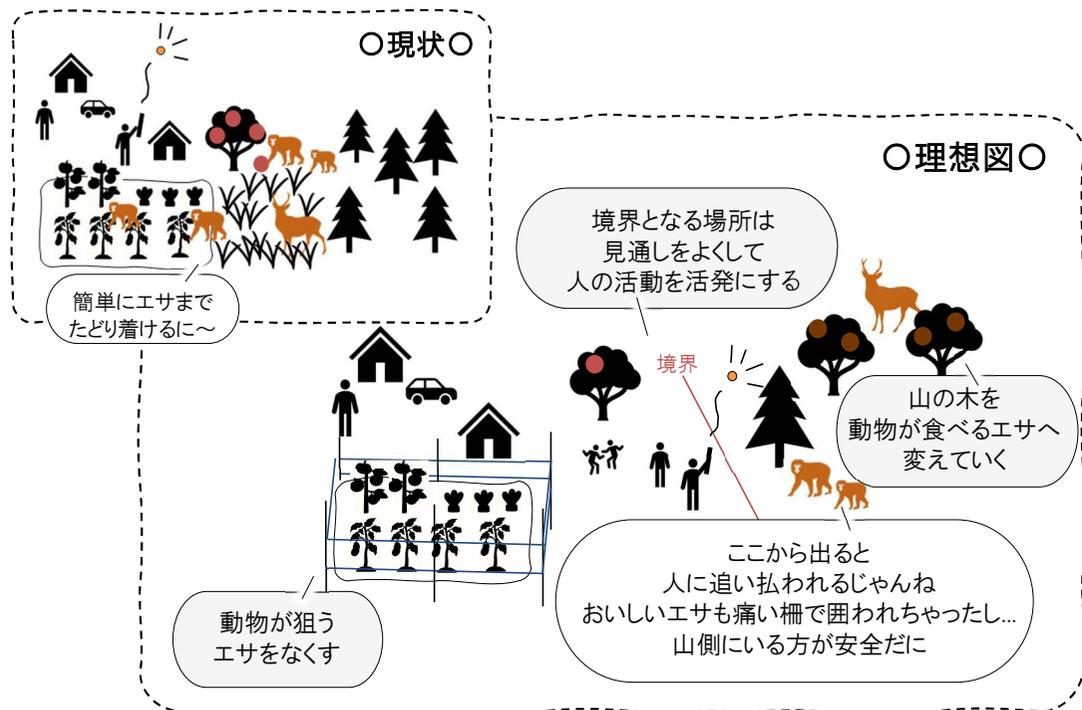
「生きのびやすい場所」とは...

- ① 怖い、痛い目にあわない（安全）
- ② 栄養価の高いエサがある
- ③ 水を飲める場所がある

などなど

動物の出没を減らすためには、

- 動物がすぐに取りれるエサをなくしていくこと
- 「ここから先は入っちゃダメだよ」という線引きを人側がはっきりさせ、それを動物に分からせることが大切です!



## 🐾 エサを食べさせない

動物たちは、

山にある「食べてもいいエサ」と、

人が育てている「食べてほしくないエサ」の 区別がつかいません。

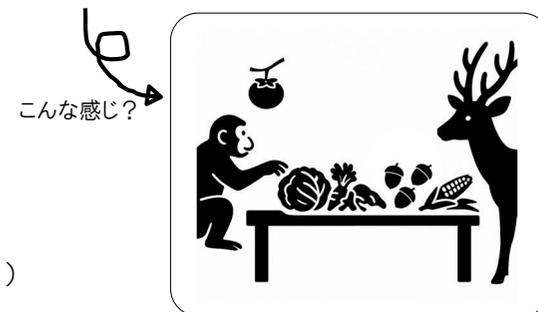
彼らにとっては、どちらも同じバイキング会場に並んだ食べ物のようなものです。

だからこそ、大切な作物を守るには、

### 「動物の特性を理解し、その特性に合った方法」

で対策することが必要です。

（各動物の特性は次回以降に紹介します!）



野菜くず



二番穂



収穫しない果樹

畑やおうちの近くに、  
こういった「動物のエサになるもの」ありませんか？

「どうせ捨てるものだし、食べてもらってもいいかな」と思うかもしれません。

でも、こうしたエサが、

動物に「人の暮らしのそばにはおいしい食べ物がある」と教えてしまっているのです。

しかも、人の食べ物は栄養価が高いため、動物の生存率や繁殖率を高め、個体数の増加につながる原因にもなっています。

被害を受けたくない作物を守ることはもちろん大事ですが、

こうした「無意識の餌付け」を減らすことも、動物被害対策にはとても重要です。